

## 1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

## 【評価実施概要】

事業所番号	4570103236
法人名	医療法人 将優館
事業所名	グループホームうしたに将優館
所在地	宮崎市大字恒久5064番地 (電話) 0985(50)6810
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成20年9月26日

## 【情報提供票より】(20年 9月 1日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 21 日
ユニット数	1 ユニット
職員数	9 人
利用定員数計	9 人
常勤 8人 非常勤 1名 常勤換算 9人	

## (2) 建物概要

建物構造	鉄骨平屋 造り
	階建ての 階 ~ 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有( 円)	<input checked="" type="checkbox"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

## (4) 利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	2 名	要介護2			
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	3 名	要支援2			
年齢	平均 81.1 歳	最低 72 歳	最高 87 歳		

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	①クリニックうしたに ②宮崎市郡医師会病院 ③なかやま歯科医院
---------	---------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは閑静な住宅地にあり、デイサービスや母体のクリニックに併設している。地区自治会を中心に地域の方々の日常的な支援や連携づくりは、地域に暮らす利用者にとって安全と安心に繋がっている。利用者と職員が共に地域の行事等に参加したり、高校生のボランティアを受け入れるなど、地域交流も盛んに行われている。管理者、職員が利用者一人ひとりの状態やペースに合わせた柔軟な支援をしている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で指摘のあった介護計画の作成と見直しは、改善に向けた取り組みがなされている。また、運営理念については職員全体で協議し改善に向け検討中である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価をサービスの質の向上の機会と受け止め、職員全員がそれぞれ自己評価に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は3か月に1回開催し、自治会長、民生委員、家族、全職員の参加で、質問や意見、評価への取組状況の報告や災害時の対応について活発な話し合いを行いサービスの質の向上に取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営推進会議に家族が出席し、質問や意見、不満等を気軽に言える雰囲気づくりに努めている。また、居室に「意見交換ノート」を備え活用できるようにしている。玄関に意見箱を置いている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	利用者が地域住民の一員として、自治会に加入している。近隣住人や保育園児、高校生のボランティアなどの来訪もあり、地域交流が行われている。また、地区の行事や敬老会に参加している。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	この地域で生活を維持するために、「家庭的な生活環境の提供」「残存能力を活かした生活の推進」「尊厳ある生活の重視」「楽しみの提供」「安心感の醸成」「地域社会とのつながりの重視」と項目を挙げているが、やさしいことばへの見直しに向け全職員で検討中である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	言葉かけ、態度、利用者本位のケアや記録など日々のケアの中に理念が活かされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者が地域住民の一員として、自治会に加入している。ボランティアの来訪と敬老会や地区の行事に参加し、地域交流が盛んに行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義とねらいについて全職員で話し合い、全員で自己評価に取り組んでいる。現状を再確認し評価を活かし質の向上に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3ヶ月に1回開催し、家族、地域の自治会、民生委員、全職員が参加して、評価への取り組み状況についての報告や災害時の対応について活発な話し合いを行いサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人代表者が福祉関係の役職として常に市との連携を持ち、また、市介護相談員の訪問を受け入れ、ホームの理解と支援の働きかけを行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に暮らしぶりや健康状態、金銭管理について細かに伝え、必要に応じて電話でも報告している。また、誕生会、ホームや地区の行事等写真やビデオに撮り、家族に送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時の会話中に、意見や苦情の言いやすい雰囲気を作るよう努めている。また、居室に「意見交換ノート」を準備している。気軽に意見を書けるよう、日ごろから、コミュニケーションを大事にしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者となじみの関係が保たれるように配慮して、法人内の異動については抑えている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、法人内外の研修に積極的に参加させている。また、研修結果については研修報告書が作成され、職員全員に報告している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者・職員が同業者と交流する機会を持ち、サービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に職員が面会したり、ホームに来訪されたり、本人が徐々に馴染めるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、料理を教えてもらう場面もあり、共に支えあう関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日常の言動を細かく観察し、想いや暮らし方の希望や意向などを汲み取る取り組みに努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人がより良く暮らす支援として、本人や家族の意見を聞き、関係者の意見も含め全職員で話し合い、介護計画の作成に活かしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者、家族、関係者と話し合い、3か月に1回介護計画の見直しを行っている。安定しているような利用者の場合も含め、毎月評価し、現状に即した介護計画書を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のクリニックやデイサービスとの連携、外出・外泊の支援など柔軟に対応し、個々の満足を高めるよう努めている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。週1回、併設クリニックの回診が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応について、早期から本人、家族、医師、看護師などと話し合い、ケアの統一を図り、全員で方針を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけをしないよう日常的な配慮をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを大切に、見守りながら柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、和やかな雰囲気できりげないサポートをしている。行事やおやつ作りへの参加、食器洗いなどを利用者の力を活かしながら職員と一緒にやっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者のこれまでの生活習慣や希望を引き出しながら、一人ひとりに応じた入浴の支援をしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食器洗い、洗濯物たたみなどの家事手伝いや菜園の収穫作業など一人ひとりの力を引き出していく支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	居室につづくベランダや施設周辺を散歩したり、利用者一人ひとりの意向に合った外出支援をしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者一人ひとりの外出傾向を把握して対応している。玄関、居室の窓などには日中、鍵をかけていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回火災消防訓練を定期的に行っている。自治会の協力を得ながら災害時の安否確認訓練等を実施している。非常用飲料・備品を準備している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立表を利用し、一人ひとりの咀嚼や嚥下能力に応じて調理師の指導で提供している。毎食後、食事摂取量や水分確保について把握し、個別に支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは明るくテーブルやソファ2脚があり、この一角に設置した畳のコーナーでは利用者が座ってテレビを見たり、居心地よく過ごせる工夫をしている。天窓の柔らかな陽ざしと落ち着いた利用者の笑顔に安心して過ごせる雰囲気を感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人や家族と相談しながら、仏壇や使い慣れた生活用品が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。		